

令和2年度第1回 南丹市地域創生会議 会議録

■日 時：令和2年8月25日（火）午前9時30分～12時

■場 所：南丹市国際交流会館2F 第1・第2研修室

■出席者

委 員：今井委員、窪田委員、坂本委員、高御堂委員、谷口委員、野々口委員、蒲生委員、
南本委員

（欠席：俣野委員、藤村委員）

事務局：市長公室 船越公室長

市長公室企画財政課 國府課長、片山企画係長、富部企画係主査

■傍 聴：1名

1. 開会（事務局）

■委員交代について報告（金融機関関係者）

旧：藤野委員 → 新：蒲生委員

蒲生委員（新任挨拶）：

7月に前任の支店長から交代となった。南丹地域についてはまだ知識不足だが、精一杯頑張らせていただくので、宜しくお願いしたい。

■欠席委員の報告および会議成立確認（設置条例による）

座長（挨拶）：

皆様よろしくお願ひします。今年度第1回目ということでお世話になりたい。

地域創生ということで第1期がスタートした。今回は第1期の最終年度の振り返りということになっている。連続的に行っていることだが、昨年度のことをしっかり振り返って今年度以降の第2期に繋げる、そういう意見・議論ができたらと期待をしている。前回お会いしてから今回なるまでに、言うまでもなくコロナ禍という社会を揺るがす大きな問題が起き、皆様それぞれにおかれましても、生活が変わったり、職場でも色々変わったり、地域経済が大変であったり、という状況であると思う。私自身も大学の授業の仕方が色々変わり、オンラインでゆっくりしゃべるように意識しているところ。あまりネガティブなことばかりではなく、ポジティブなことも言うべきかなと、色々思っている。

地方創生についても、各自自治体ともどういう形でこういう会議を開くのか悩ましいところである。本会のようにリアルに開かれるところもあれば、オンラインで開くところもあって。それが上手くいったり、オンラインで開いたはよいが回線が途中で落ちて会議がうやむやに終わってしまったりすることもあった。し

かし、世の中が暗くなりがちなか、前向きに挑戦していく。致命的なものでなければ、失敗しても取り返してやっていく挑戦の方がよいと思っている。

最後に、南丹市で「高校生YouTuber養成講座」というものを研究室のゼミでやろうと思っている。前回の最後の時に、皆様それぞれの立場で今後新しい地域創生ということ盛り上げていただけたらと、私も何かしたいと思う、と言っていた1つの表れである。これからの時期に市内に通う府立高校生をターゲットに自由参加のセミナーを開き、YouTubeの動画の作り方を教え、それぞれの感性で地域の魅力を形にしてYouTubeにアップしていく取り組み。楽しみながら地域に貢献しようという動画を作る。というように、地域全体で色々できることをやっていったらいいんじゃないかと思っている。皆様にも様々な意見をいただいて関わっていただきながらやっている試みなので、今後もそういう気持ちで関わっていきたいし、ご協力もお願いできたらと思う。

今期もよろしく願います。今日と次回は基本的に昨年度の地域創生交付金を受けた事業の評価・振り返りということをしていきたい。また、第1期の5年経っての全体的な振り返りということもしていきたいという趣旨なので、ご協力をお願いします。

2. 議事

委員：

それでは議事に入るが、まず今年度の地域創生会議の進め方について、事務局からご説明いただきたい。

(事務局から説明)

- 第1回：第1期5年間のKPI推移および令和元年度交付金事業の説明・質疑
- 第2回：担当課出席のうえ交付金事業評価確定、第1期戦略の総括評価

委員：

承知した。今回は事務局から手元資料を使って、地域創生交付金事業の説明等、次回昨年度の取り組みについての評価を確定するために必要となる質疑をやっていく。沢山の交付金事業があるので一度にするのは量が多く大変。勿論、30以上ある事業の関係の部署の方全員来てもらうのは密になる、無駄になる可能性も高いので、今日まずは事務局にこの資料で説明いただいて、次回もっと詳しくお話を聞きたいという事業をピックアップして、第2回の時にはそのピックアップした事業の関係の方に来ていただいて直接やり取りをする。丁寧にやっていただけると有難いと思う。ここまでで質問等ありますか。

各委員：

(特になし)

議事①：南丹市の現状について

<資料「令和2年度南丹市の状況について」>

(事務局から説明)

- 令和2年度一般会計予算の状況について
- 第2期戦略の状況(位置付けて実施している事業)について
- 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業(コロナ対策)の状況について

委員：

この資料について質問等ありますか。

各委員：

(特に無し)

議事②: 令和元年度事業の説明について

<資料①・②、資料「地方創生交付金事業評価シート」>

委員：

では、次第によりまして、「平成31年度(令和元年度)事業の事業評価」について事務局から説明いただきたい。

(事務局から説明)

- 資料①により、第1期戦略と交付金事業に設定したKPIの推移・目標達成度について説明
- 資料②により、令和元年度に地方創生関係交付金を活用して実施した事業について、新規事業を中心に説明
- 併せて、資料「地方創生交付金事業評価シート」について説明のうえ、各委員に次回会議までの事前評価作業について依頼

委員：

説明いただいたが、改めて私の方からも。

地方創生については交付金をいただいている事業もあれば、そうでない事業もある。交付金をいただいている事業については国に対して評価結果を報告するようになっている。職員自身で自己評価した後で、私達のこういう会議の場で確認のうえ、その結果を国に報告する、ということ。お金をいただいて有効に使ったかという評価をする。そういう意味では出資者に報告するだけでなく、今後の事業展開等にも活かすという意義があり、担当課や職員にも参考になるだろう、ということで取り組んでいく。目的としてはそういうところ。

政策的な「評価」とは価値を明らかにするということだが、色んな観点で評価ができる。例えば、あまり意味ないが38事業をベスト政策からワースト政策までランキングする、そもそも38事業も採択を受けられたこと自体がすごい、という評価もないことはない。色んな視点があるが、一般的なやり方かつ本市でもやっているやり方は、「有効」か「有効でない」かということ。これがそもそもどういう狙いをもった事業か理解した上で、そもそも必要だったのかというレベルと、作った時は狙いはあったが狙いどおりになった・ならなかったということの2段階で。前者の方は「必要性」と呼ぶこともあるが、「有効性」という表現で。

次にそれをどうやって判断するののだが、1つはこの事業を作った人と実施した人の話を聞かないと始まらない。しかしそうすると密になる、時間が膨大にかかる、ということになるので、今日はその前整理をしていきたいという話。自治体職員に聞いても希望的観測であったり、主催者が別において絶好

調で進んでいると言うが、本当か怪しい場合もある。そこで、まずやっている方の話を聞くということと、私達色々な分野から集まっている者の知見を突き合わせる。さらにここを丁寧にしよと思うと最近「EBPM」(Evidence-based Policy Making、エビデンスに基づく政策立案)。丁寧にやろうとすると、シンクタンクとか大学に委託して本当にそうなのか調べてもらうということになるが、この38事業にそれぞれ100万円単位のお金を使って調査したら大事なのでそこまでしない。そこで私達が持っている情報を持ち寄って考えていくということ。特に大事だと思う事業については、ピックアップして担当者に来ていただく。過去やったことが有効であったのか振り返り、その延長線上に現在の第2期戦略があるので活かしていく。過去にやったものの中でこれは特に大事だったというようなものと、初めてやるようなことで、必要に応じてやったものについて結果を検証するものの中で、第1期で柱になっているようなものをいくつかピックアップしていくとよいと思う。加えて、曖昧だが、今日の時点で38事業全部、一人一人評価は決まらないと思うので、宿題として①～⑤どれかを選んでいただくが、その作業をする上で聞いておきたいことも質疑していただけたらと思う。

ということで、今日は「どれをピックアップして次回来ていただくか」までいって、次回の会議の日程も決める、というところまでやりたいと思う。

いくつをピックアップするかというはつきり決まった数はないと思うが、次回皆さんが出してくれたものを集計をして表にして決めていくために、ある程度詳しく質疑応答ということなので、例えば5チームきてもらうか3チームきてもらうかで議論の密度が変わる。多分、10事業きてもらうのは現実的ではないので5前後の中でやるイメージ。

では、皆さんそれぞれ「これについて担当者も来てもらって聞きたい」、「この事業がどのような事業なのか」等、フリーに話していただければ。予想されるのが、「この事業の成果を表す情報が提供されていなかったと思うが、何かないか」等と言ってもらってもよい。事務局が知っていればここで教えてもらえるし、知らなければ宿題として持ち帰ってもらって教えてもらう。各事業についてご質問等ありますか。

委員：

基本目標1の施策1に関連して。かなり空き家対策も相談件数も上手くいっているのですが、問題がないといえないと思うが、私達住んでる者からすると、空き家といったら家の方だけで、実際は周りの農地や事業展開、カフェをしたり等で色々な空き家が埋まっていつているのかなど。そこら辺が分析されてどういう方向の人が南丹市に目を向けてくれているのか気になる。南丹市は割と適当な田舎ということで関心が高いかもしれないが、上手くいっているのであれば、これをもっと伸ばせないか。農家からしたら農家がいってその周りに必ず畑なり田んぼがある。それも含めて利用する時には移住者にメリット少ないというか、集落の維持が難しいというか。そのあたりが農業推進課なりどういう関わりを持っているのか。

集落で空き家対策しないといけないということも、集落の自治会のトップには書類が行っているのだから分かっていと思うが、集落全体がそういう情報・認識ができていようには思えない。そこも含めて「空き家がありますよ」と集落内でも空き家と空き農地の両方を減らすPRを合わせてしていけば、かなりの確率で空き家・空き農地・荒廃農地の拡大を止められる気がする。

委員：

空き家機能対策について担当者に来ていただいて、この指標だけではわからない内容をもっと掘り下げて尋ねてはどうか。この指標もどれだけ満たせば絶対というのはないので。一応、第2期を策定したこの会議として、指標を見てもらって、この指標でそもそもいいのか、目標が低すぎたのでは、等とい

うとこをみていくということ。そういうことも含めて委員が言ってくださった、移住定住・荒廃農地対策などを取り組みをなされている担当者にもう少し話を聞きたいということ。

委員：

今の関連になるが、私も聞かせていただきたいと思っている。「地域」と言うときは土地と農地をセットで考えるべき、荒廃農地とも密接につながっていくわけであるし、家と農地がセットになっていることで逆にそれがネックになって移住が進んでいないという現状もあると聞いている。取得が一定規模以上でないとできないとか、農業する気のない人は農村には住めない等ということがネックになっているところもある。

京都府では移住促進条例が今年度で失効する。そのまま終わりにする気はないが、現行で村単位で地域指定、のような形になっていることについて、当然そうすると農業地域が中心になってくるのだが、例えば日吉町の胡麻は新興住宅地があるために旧村単位・学区単位で見て該当しない。では、その地域全体がそうかといえばそうではない。今の移住促進地域のままで果たしてよいのか。多分違うと思う。

あるいは、「ほどよい田舎」というと農村だけが全てではない。KPIの達成状況を見ても、気になるのは転出超過、つまり正直全体で見たら上手くいっていない。人口減少してしまっている。今時、転入超過になるというのは有り得ないというのが現実問題だが、そこで転入転出のバランスをどうとっていくのかと考えたときに、決して農村だけではないのだと。現に比較的バランスのとれている亀岡は今、千代川町で大規模な区画整備事業を実施しているが、農村だけではなくて都市近郊であれば宅地をピックアップして人口維持につながっていく。両方のバランスをとらなければならない。田舎へ移住したい、そのときに何故、田舎の駅前ではダメなのかという思いがある。まして with コロナの今は、ある意味チャンス。「ほどよい田舎」というのは。サテライトオフィスであったり、地元の働き方。極端な話、例えば日吉だったり美山だったとしても、毎日京都市内に通勤するのはしんどいが、週1回なら朝6時に出ることになっても苦ではない。毎日しんどくても。そうすると働き方の選択肢が広がってくる。田舎に住みたい人達のニーズは、農業したり農村に住みたい、だけではないと思う。

そういった方々の受け入れをどうやっていくのか、というような課題を踏まえて条例を作るのだが、この短期間で反映して次の条例を作るのか、とりあえず現状のものを延長しないと仕方ないと思っている。そういった新たな要素を含めて1年かかるか2年かかるか分からないが、検討した上で次の条例を作る。改正になるのか新たに作るのかは分からないが、移住促進の手立てを考えたい。そういった意味でここ南丹市はすごくモデルになり得る地域。都市部もあれば農村部もある、「ほどよい田舎」と委員がおっしゃったとおりである。非常に地理的にも有利で、色んな要素がある。南丹市の取り組み状況であったり、他にあれば聞かせてほしい。

委員：

今の委員の話を聞いて。大学の来年度の状況は見えないところがあるが、オンラインで対応できる政策系のところと違って、理系は実験しないといけないのでキャンパスに行かなければならない。政策系は通信教育を次年度に向けて後期の準備をしているので、何かやりながら授業を受けてもらう、ということも考えられると思う。今後の第2期の考え方で言うと、with コロナで何か出来ないかということで、上手く取り込んで大学生に来てもらうのもいいかも知れない。次年度以降も、例えば大講義はやめていって全部リモートにして、大学で新しく目指すことを検討している。他の大学でもきっと考えられている。一般論として政策系の学科は似たような状況にあるから、学生がある意味南丹市に来やすい感じになっているのかなと思った。

事業No.4-1の小学校跡施設利活用推進事業は、2年前にゼミ生達と合宿をした。お世話になってその後どうなったのだろう。150万円を使って持続可能な小学校跡の起爆剤になっているのか、延命になっただけなのか、その後の状況を聞けるものなら個人的には聞きたいところ。

委員：

金融機関なのでどうしても金融面という立場で見えてしまうが、やはり地域創生には必ず経済活動が付いて回る。いかにお金を生んでいくかということも。この38事業を見てもどうしても、先ほどの農業の話もコロナもそうだが、みんなが1つのチャンスと捉えて、どれだけ南丹市に人が集められるか。花火大会がなかっただけでこれだけKPIの数値が落ちるといのは、人集めをイベントに頼っているというようなところがあり、気になった。ピンポイントのイベントで人を集める、継続的に年中通じて均等に人が集まるような何かはないのか。

コロナの関係では、今金融機関からしてもビジネスチャンスが非常にある。今までやってきたことプラスアルファ、何かを付け加えていく。同じことをやっていたのではwithコロナにならないので。先ほども話が出ていたが、丁度よい田舎ということであれば、キャンプが盛んでグランピング等も施設もどんどん流行る。都会から近くて、これだけの自然があり、これだけの土地もある、いかに活用していった継続的に人を呼べるか。このwithコロナを取り入れるのと共に、空き家政策、過疎化を食い止めることによって、都会に近い田舎をアピールしていく事業ができれば、意外とよい素材が沢山あるのと感じている。

委員：

美山のサイクリング関係で話を聞いてみるということもよいし、もう1つ、移住してくるニューカマーについて、起業してもらおう関係で。農家民宿、女性起業家、いくつか指標を立ててやっていたけれども、そういうことについて一度聞いてみるというのもありかもしれません。

委員：

単純に企業を誘致するというだけでなく、ここでしか生み出せない事業があれば新しい人も来るのでは。

委員：

この会でも5年間にわたって、企業誘致することはとても大事。積極的にやって成果も出ていいなと思っているが、同時に地元の人に仕事がないということも言っていて。企業誘致だけではなく、できることはないのか、起業の方で何かできているのか、ずっと気になっている。「起業数」というような書き方で中身的にどうなのだろう、みんながやりたいこと・面白いことができているのだろうか。

委員：

実際に起業されている方の業種がどうなのかというのが見えていない。どういう業種を地域のみなさんがやりたがっていらっしやるのか。中身をもう少し見ていかないと、南丹市に合った起業というのが分からない。

委員：

支援策としてのセミナーをやる。やり方を工夫しているようだが、詳しい情報は聞いていない。起業する人のデータ、関係人口や観光等。先ほどの高校生YouTuberもそういう意味では新しく引っ越し

てきた人以外に若い層が未開拓の分野なので、自分達も楽しみながら、役立つ経験も積んでもらったと思うところ。例えば、都会から引っ越してきた人が何が業を起こして成功して、かつ地域にも快く受け入れてもらえるようなことができれば。

委員：

南丹市では本当に温度差がある。美山町は移住しても知井等非常に住みやすいところだが、学校に通うのに1時間もかかる。美山小学校1校しかない。学校運営協議会に入っているが、小学校と中学校が1校ずつしかない。なかなか住みにくくなった。医療も美山診療所も色々と課題があつて。医療・介護に、店舗も少なく、ふらつと美山が唯一の店のような状態で生活が厳しい。どこに挨拶にいらつても美山は自然豊かでよいと言われるが、住人としては住みにくいところ。農業も田んぼがなくなり、高齢者は農業をやめてしまう人が多く、どのようにしたらよいだろうと思う。本当にこれから先が思いやられる。

委員：

最近、車で来ていて、帰りにグランピングをしているるり溪や、胡麻の方に寄ってご飯を食べて帰ろうか、美山まで行こうかと話題には出るが、学生の感覚では車で40分くらいかかる美山を敬遠してしまう、ということはある。

委員：

学校跡地では平屋小学校跡地に4月から多機能型事業所あゆみ工房が入っており、地域活性化センターの事業等もされているので、有効に活用されている。

委員：

ここに挙がっているものの関係では、先ほど言っていたのと一緒ではあるが、京都・大阪から通って体験したいという関係人口を上手く地域活性化に繋げていくために、市がやっている取り組みが効果的だったか、検討の余地があるかも知れない。

委員：

事業No.1-4に「特徴的な地域資源を活用した」と書いてある。この地域資源の1つである園部町の園部落を活用したテーマにした事業がかなり盛況だった。この地域資源「園部城」を活かす取り組みであったり、農地等の地域資源も活かした取り組みであったり、事業に転換されて、地域のいろんな分野に繋がって、効果的に取り組む方法がないか、と思った。。

委員：

地域資源を使ったプロセス、ラストキャスル等色々出ていた。あれは皆さん大いに盛り上げていたらよいと思う。ここで取り上げて掘り下げたことが、上手いきそうという手ごたえ感じてを注目している。

委員：

歴史の分野については園部城400年という節目に当てはまった。八木については八木城があつて、今なんとかそれを活かさないかなということに取り組んでいる。また、八木駅舎が新しくなるので、皆さんに歴史を伝えていきたいと思っている。いろんな産業が地域である、京都で指定された地域資源、

それを活用して補助受け、定住・販売利益にも繋がる。歴史と産業、それが地域資源となって、地域振興ができればと。

委員：

継続していれば給食で活かしたり上手く料理に取り込める。舞鶴によく行くが、海軍の歴史の発掘や再現等で空振りを繰り返していたが、最近赤レンガ倉庫等で再現料理を5種類くらい出して好評。海軍のサイダー等、値段が高くても付加価値で許されている。

委員：

お弁当をしていると思う。お弁当にその地域の食材を使った取り組み。一時は園部藩の台所というPRもしていて、そういう取り組みから販売利益に繋がればと思ったが、なかなかそれも課題があって広がらなかった。しかし地域を知ってもらうことは大事。

委員：

先程から出ているが、コロナ禍の関係でサテライトオフィス誘致が進めばと考えている。

しかし、今回のKPI推移資料ではサテライトオフィスの相談件数が目標に対して20%しか達成できていない。どのような誘致活動をしていたのか気になる。

ケーブルテレビを活用して地域に拡大して準備はできている。

ただ、南丹市に合う業種・合わない業種はあると思う。

委員：

その企業にサテライト性がある否か、ということか。聞いてみるとオフィスに地元の人が入っていることも。そういう形も出来るといえば出来るし。分からないといえば分からない。サテライトオフィス事業については、先ほどの小学校跡地活用事業との関係で聞けたらと思う。

委員：

過去の目標達成という議題なので今回過去の件がかなり出たのかと思うが、これからのことも踏まえて思ったことがある。

1点目は、市民協働室の取り組みについて。これは先程の話題に繋がるが、これから美山町含め南丹市がどういったお客様を呼び込んでいくのかを考える上で、イベントを5事業ほどされていると思うが、こういった千人単位でのイベントで集客して、それを観光客としてカウントをしていくのかどうかを見直してみるべきでは。併せて、KPIが「観光宿泊者数」「外国人観光客の宿泊者数」になっているが、どちらかというに移住定住の方が目的に沿うと感じた。例えば事業No.2-10の日吉のイベントについても目指す方向は市内・市外と書いているにも関わらず、KPIは「外国人観光客の宿泊者数」、これは少し齟齬がある例だと思う。事業自体がどうこうでなく、KPIの見直しが今後必要になるかと思う。

コロナ禍で各種イベントが中止になっているが、私はこれをイベント整理をするにあたってよい機会だと思っている。地域の方も本音としては「今年なくてよかった」という声が聞こえてくる。本当に必要なイベントと、地域の方の力を消費するだけに留まってしまいうイベントの2種類があると思うので、この機会にイベントの事業整理というのもしていった方がよいのかなと思った。

2点目は、全ての事業を通して様々な紙媒体が作成されているが、その中で私が目にしたことある紙パンフレットはほとんどない。そういった媒体を南丹市のどこかのウェブサイトで一覧にさせていただいて、PDFでも結構ですので見られる仕組みがあると非常によいと思う。勿論、既に一部PDFでアップ

されているものも拝見しているが、ワンストップで見られるサイトがあるとよいと思った。

3点目は様々な事業の中で人材育成、セミナーの実施というものがある。それを例えば将来、南丹市に帰ってきて働くときに使ってもらおうという狙いはあるとは思われるだろうが、全体として人材育成をして若い人達が資格を取りました、働くところも決まりました、という成果について、企業に入ったときにそれが評価される仕組みがないように感じている。例えばどれだけ頑張って資格を取ろうが、仕事に就こうが、田舎の場合だと評価をしてくれる人がいない。市役所にはあるかも知れないが、企業の中にそういった人事評価システムというものがない、美山町内では少なくともないと感じている。育成した、それが身に付いた人がしっかりと評価につながる、給与に反映されるというような循環がないと、結局田舎に帰ってきてあまり割のいい仕事がない、やっぱり都会で働こう、ということになってしまう。まち全体で考えていくべきところなのかなと思った。

4点目は質問だが、事業No.2-9の「もみじ祭り・さくら祭り」に、「リピーター率が高い」という一文があるが、どうやってリピーター率が高いと判断しているのか非常に気になる。私達も観光庁にリピーター率を求められていて算出できずに困っているので、もし出し方があるなら教えて欲しい。

委員：

時間も限られてきたので、皆さんこの38事業について2つ資料があり、まだ精査はできていないと思うが、とりあえず「このKPIではこの事業はわからないだろう」という意見があれば、ここでピックアップしておきたい。皆さんが宿題として事業評価をつけていただくにあたって、お気付きの点を言っていたかと思う。この2つの資料では判定できない、という件があれば。

その次の段階として、もういくつか挙がっているが、改めて次回、担当者に来てもらいたい事業を事務局に伝えて整理し、スケジュールを決めていきたい。

委員：

事業No.2-8について、八木の花火が中止になったことで園部城祭りしか事業が残らなかったと思うが、予算はどういった割合で最終的に使われたのか。

委員：

執行費について、調書に事業費は書いてあるが、どう執行されたのか、その数字が知りたいということ。

事務局：

事業費だが、例年どおり出ている形となる。というのも、準備経費がどうしてもかかっている、直前でやむなく断念という形になると、経費としては出ざるを得ない。

委員：

大体そうである。花火は中止になっても、結局は花火を用意するので、それを解体・破棄しなければならない。この花火大会のために造ったものなので流用もできないし、直前で天候の都合で中止になっても全額出してしまう。

委員：

難しいところ。一方で全国的に花火大会ができる所が減ってきているから、止めたら皆さんがっかりされる。集客イベントになるのかなと思う。

委員：

イベント系は多分、今年できないと思う。だからあんまり意味がない指摘になるかも知れないが、本当はKPIを達成するためにどんな工夫をしていくのか考えるべき。例えば前から指摘している件として、トライアスロンはすごくよいイベントであるが、それに参加した方々が一体どこに泊まっているか把握していない。それは泊まってもらう仕組みになっていないから。花火大会でもそう、せつかく夜のイベントだから、キャパシティの課題はあるが、花火が終わって駅が大混雑するのではなく、夜のイベントだからそのまま地域に泊まってもらうという仕掛け・構造がどこにあるのか。それがなければこのKPIは全く意味をなさない。そこが正直、この地域のイベントの課題・問題点。本当はそこを言いたいが、今年は一切開催できないからあんまり意味がない話。

これは昨年度事業には関係のない話だが、サテライトオフィス・観光に関しても、チャンスなので今まで来てない人が来ているはず。河鹿荘の下流もそう、今まで人が泳いでなかった所を泳ぎまくっている。あの人達をどう経済効果につなげていくか。今まさにゴミだけ落としていくあの人達を、どう経済効果に繋げていくのか、そういった準備が必要だと思う。そういう工夫を今年度どうやっていくのか。実績について話すべきこの場にふさわしくないかも知れないが、工夫をお願いしたい。

委員：

改めて全体の出題を確認しておく、必ずしも次期に向けての話をするのがふさわしくないわけではなく、この数時間のヒアリングを通じて、担当の方が第2期中で事業を練っていかれることに影響を与えたり、参考にしてもらったりとする狙いもあるので、過去5年の振り返りに加えて次の第2期に影響を与えるということ。ずっと言ってきたが、勝手に「決められた事業を後で評価しろ」と言われても、と言い続けてきた。言い続けたので、配慮をいただいた。先に言えるチャンスなので、一応それを踏まえて予算化されていくわけである。最低限昨年実績に対する外部評価もやるということなので、今後のことで話をしてみたい事業を選ぶのも構わない。

特定しやすいのは、「サテライト誘致」・「小学校跡地利活用」を一体と考えているが。後者は総務課、前者は商工課。どちらかと言えば、サテライト誘致でお願いしたい。

「起業セミナー」というのは同じ担当部署か。担当者は異なるかも知れないが。

「移住定住」というのは、大括りでよいのか、もう少し事業を絞らないとどの担当者が来るのか絞れないということなのか、悩ましい。そこは話をしたいというニーズは確実にあったということ。

サテライト誘致と起業、移住定住、あとイベント観光関係はどう絞るのか。

委員：

市民向けのイベントを管轄されている部署の方のお話が聞きたい。

委員：

地域資源を活用した歴史イベントの話にも関わる内容になると思う。市民向けのイベントを担当される部署から来たら。

委員：

今年はコロナの状況下でやれるイベントを考えて、南丹市からこれをきっかけに発信できるものを考えて。

委員：

では、今の4つということにして、精査をして問題が出てきたら私と事務局で調整させていただくという事で。そういう扱いにさせていただきたい。

宿題の事業評価シートをやっていただくのだが、「このデータが知りたい」ということが、着手されたら出てくるかも知れない。なるべく早いうちにざっと見ていただいて、この情報が欲しいということは事務局に投げさせていただいて、皆にも返してもらうようなことで評価していくという感じで。

評価をつけていただくにあたって、以下の点をご注意いただきたい。昨年と今年はコロナで大きく変わってしまった。戦略も第2期になった。今回の評価は「昨年よかったか」という話をしているので、昨年の第1期戦略の文脈を元に、有効であったかどうかということの評価いただきたい。意見やメッセージの欄については昨年の評価としてのメッセージでよいし、「コロナですっかり変わった」と書いてもらってもよいと思うが。基本的には昨年やられたことが適切に有効に行われたか、という評価になるということにご留意いただきたい。その他の発言やりとりの際には当然、現状も踏まえてになるが。

3. その他

・次回日程調整

10/9(金)AMまたは10/13(火)AMについて、欠席委員と調整

4. 閉会

座長(挨拶)：

コロナ禍における会議開催について心配はしていたが、委員の皆様におかれましては積極的に関わって下さり、私としても嬉しいところ。

市の方についても、皆さんのアイデア次第では第2期戦略の修正を検討しても良いと言っていたので、有難いと思う。じっくりと評価をして、次の展開を考えたいと思う。

大変な時期だが、明るい話題もいくつも出たと思うので、この地域創生を盛り上げていきたい。